

大阪府保育士会だより

平成19年12月1日

第77号

ほほえみ

大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会
大阪市中央区中寺1-1-54
TEL 06-6762-9001



すべての人が子どもと子育てに 関わりを持つ社会の実現を目指して



—第51回 全国保育研究大会—

第51回全国保育研究大会が11月7日から3日間、札幌市の札幌コンベンションセンターで開かれ、全体会と10分科会が行われました。オープニングにはNPO法人旭山動物園くらぶ理事長、多田ヒロミ氏が「旭山動物園の人気の秘密とその魅力」について講演されました。



研究大会初日は開会式のと、厚生労働省から「保

テーマにした第2分科会では、まず新潟県の寺池保育園から「地域子育て支援のための環境づくりへの取り組み」について、続いて大阪府保育士会から守口市の錦保育園、田中旬子さんが「子育て家庭がその生活圏内で利用できる地域子育て支援拠点」と「子育て支援サービス面の整備や改革」について報告。

在園・地域の保護者からの意見だけでなく、大阪府保育士会所属の民間園に対するアンケートを基に検討した内容となりました。

最後に沖縄県の港川保育園から「絆をつくり絆を強める場としての夏休みボランティア受け入れ」について報告されました。

それぞれ地域性の違い、子育て家庭や地域のニーズの多様化を感じさせる内容でした。

育の動向と課題について」の説明があり、引き続き小川益丸全国保育協議会会長から、基調報告が行われました。

2日目は分科会に分かれて研究発表が行われ、1800名近くの参加者が熱心に耳を傾けました。「子育てを支援する」を

「子育てを支援する」を

この日の午後からは、大阪府立大学准教授、山野則子氏を助言者としてグループワークを行い、山野氏は「ニーズをつかむ」「モチベーションの低い親への支援」「つながりを作る」を柱に講義、「親がいかに子育てに自信を持つかが大切」と強調されました。

園に遊びに来てね!

親子ふれあう「わんぱく・くらぶ」

当園は地域の親子を対象に、保育園へ遊びに来てもらう「わんぱく・くらぶ」と「園庭開放」、近くの公園で遊ぶ「公園広場」を行い、親子のふれあいや、情報の交換、育児相談の場として14年目になります。また、地域の老人施設や小・中学校を定期的に訪問しています。異世代との交流を通して感受性豊かな思いやりのある子に育ってほしいと願っています。



堺市 鳳西保育園



地域とつもと ふれあう大切な



おもちゃがいっぱいあるよ!

親子で楽しんでもらおうと、保育園のホールいっぱいにおもちゃを用意しています。名づけて「おもちゃで遊ぼう」を昨年より行っています。在園の親子と、招待した地域の親子がみんな大好きなおもちゃで遊びます。遊びを通じ楽しい時間を共にすることで、人と人



寝屋川市 神田保育園



社会全体で支える子育て

主任保育士研修会

19年度主任保育士研修会が7月27日と8月6日の両日、大阪社会福祉指導センターで、82名が参加し開催されました。

▼第1日目

現代の家庭をとりまく状況その支援について

講師 中部学院大学

寺見 陽子教授

子どもをめぐる社会や環境の変容が進む中で、子育てを社会全体で支えることが求められています。子どもへの関わり方や接し方がわからない保護者が多く、「ダメ」と言い放つだけで子どもと向かい合おうとせず、ながめる育児をしている保護者が多いのが現状です。親になりきれず、自分を変えたくない親に対して、子どもの幸せを自分の幸せとして感じてもらえるように、保護者をとりまく環境を見極め、立場の違いを視野に入れた支援、援助が必要です。

▼第2日目

保育と社会の変遷と構図

講師 大阪大谷大学

桜井智恵子教授

高度成長期以降の社会変化が社会全体の問題としてではなく、親や保育現場の責任とされてきている現状があり、子どもにとって生活しやすい環境が失われつつあります。ゆとりがなく、子育てに不安を感じている保護者をまず理解し、今抱えている問題に共に向き合い考えること、子どものニーズを最優先に考えられるように、保育者が助言することが大切です。子どもが持っている「無敵パワー」を受け止める心のゆとりをもつことが保育者に求められています。

高度成長

期以降の社会変化が社会全体の問題としてではなく、親や保育現場の責任とされてきている現状があり、子どもにとつて生活しやすい環境が失われつつあります。ゆとりがなく、子育てに不安を感じている保護者をまず理解し、今抱えている問題に共に向き合い考えること、子どものニーズを最優先に考えられるように、保育者が助言することが大切です。子どもが持っている「無敵パワー」を受け止める心のゆとりをもつことが保育者に求められています。



これからの保育所に求められるもの
講師 大阪府健康福祉部 児童家庭室
新生隆信課長補佐
少子化が進行する中、要



主任保育士としての専門性と保育士の倫理
講師 大阪府保育士会 名誉会長
武内 茂子氏
福祉についての国の方向性が定まっていらない中で保育者に課せられることが増えてきています。認定子ども園という新たな選択肢が

話し上手な保育士とは 豊かな感情を言葉に

～保育士研修会～



武内茂子名誉会長

せつつ保育園
今井 靖子

加わり、地域への子育て支援の枠は広がっていますが、介護保険制度と同じような制度がとられるようになる、子どもたちの不利益につながる現状があります。保育行政の大きな

変化的中で自己研鑽（けんさん）と人間陶冶への努力を忘れず、保育を支えているのは自分だという強い信念を保育者それぞれが持つことが大切です。

自分のことを知り、相手のことを知ったうえで、技術を磨く必要がある。医学や心理学の観点から情報の捉え方、判断の仕方、事例を交え、わかりやすく解説されました。



ユーモアをまじえて北畑氏

身近な材料に蛍光色の具を塗り、立体的な動く人形を作成。背景には透明感と奥行きのある水族館の様子を見事に表現、内容も楽しく、演者の工夫された人物の使い方、会場は夢のような雰囲気にも包まれました。

また、児童精神科医で、かしわ保育園園長の北畑英樹氏が「話し上手な保育士になるために」をテーマに講演。あやしや小丸という落語家の高座名をもつ先生らしくユーモラスに話され、話術の必要性が実感できました。

自身の行動や会話の大切さを再認識した研修会でした。
堺めぐみ保育園
沢西 佳世



指針改定中間報告めぐり意見交換



第41回全国保育士会研究大会



第41回全国保育士会研究大会が10月18日、19日の2日間の日程で、四国最大の観光コンベンション施設アスティとくしま(徳島市)

また、全国の永年勤続保育

学の子金子恵美准教授は、告

また、四国大学の田村典

やホテルクレメント徳島など4会場で開催され、全国から1326人が参加、

「保育所保育指針」改定の中間

全国保育士委員の鈴木美

「未来へのとびら〜新たな

報告について、厚生労働省

の影響など「中間報告」の

食育における「めざす子ども像」とはどんなものでしょうか。「保育所における

高い生活を送る基本として

て、めざす子ども像に近づ

ます。そうすることで、食

保育士の学びのシリーズ⑧

名古屋短期大学保育科 小川雄二 教授



食育の目標について、次のように述べています。「現在を最もよく生き、かつ、生涯にわたって健康で質の

⑤食べものを話題にする子ども。そこで、これを参考にし

保育の中に食育を位置付け

要性を確認しましょう。

食育の取り組みを点検しよう!



食育の取り組みは、何の目標もなく実施するのではなく、ねらいと対応させて計画的に行いましょう。

点検と学習をして、園全体で食育に取り組むことの必要性を確認しましょう。

仲間意識育むエアロビクス



中堅保育士研修

中堅保育士研修会が11月2日、大阪社会福祉指導センター3階ホールで開催され、108人の保育士が参加しました。

「保育に活かせるエアロビクス」。エフ・アンド・デイに所属し、イ



キッドビクスでエイエイオー!!

大阪府保育士会が「専門性を深める」専門職としての「責務」をテーマに研究を発表する予定です。

今回の開催地、東京では

大会2日目は3会場で分

「からだ育て」の活動につ

り、自然に身も心も弾み

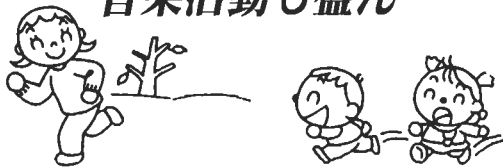
活躍されて



たのしい保育活動



自然に触れ足腰を鍛える 音楽活動も盛ん



まどか保育園では年間を通じて楽しい行事を設けています。なかでも園独自のかけっこ大会、トランポリン遊び、羽根つき大会は子どもたちの人気です。

当園は高尾山の麓にあるため、自然環境にも恵まれています。春は桜の名所めぐりや大和川への散歩、夏はサワガニやセミ採り、秋は柏原市名産のぶどう狩りやどんぐり拾いに出かけます。冬は近くの農道を白い息を吐きながらマラソン。子どもたちは豊かな自然に触れ、足腰を鍛えたり、季節の移り変わりを肌で感じながらのびのびと過しています。



みんな ハイポーズ!

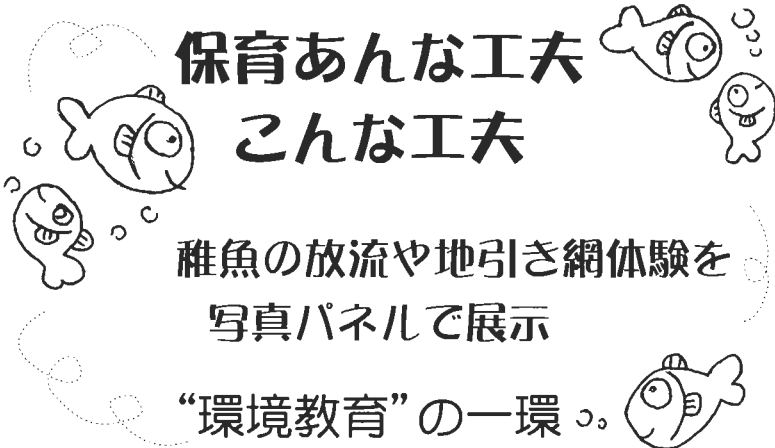
また、音楽が大好きな園長先生のもと、音楽活動も盛んです。毎朝、季節の童謡や楽しい歌を年齢に応じた選曲で歌っています。0、2歳児はタンバリンや鈴で楽器遊びを

したり、リトミックで遊んだり小さい頃から音楽に親しみ、3、5歳児からは音楽リズム指導が始まり、鍵盤ハーモニカや打楽器を使い合奏を楽しんでいます。四季の変化を楽しめる大

自然に囲まれ、子どもたちは感性豊かに心と身体を育んでいるのです。
まどか保育園
山中 淑子



保育あんな工夫 こんな工夫



稚魚の放流や地引き網体験を 写真パネルで展示

“環境教育”の一環

と首をかしげるようなこの取り組みを保護者いかに伝えるか考えた結果、ありきたりですが「写真」を活用することにしました。これまでも子どもたちの写真を撮り保護者向けに掲示してきましたが、その写真は可愛らしい表情やしぐさ、行事活動の楽しい様子が保護者に伝わることに重きを置いてきました。

泉南市では今年度、大阪府の委託事業「環境教育推進モデル事業」に取り組み、当園も幼・小・中学校園と連携をとりながら「環境教育」を進めてきました。「環境教育って何のこと？」

に園玄関に掲示しました。保護者からは取り組みの内容がよく分かると好評で



地引き網パネル展 開催中!!

した。これらの写真はヒラメの稚魚の放流・海岸清掃による原生種の保護・地引き網体験などをした時の「パネル展」です。
今回は環境教育に重点を置きましたが、来年は普段の保育にもパネル展示を取り入れたいと考えています。
なおこの環境教育パネル展は、来年1月に市内全学校園に向けて発表することになっています。

西信達保育園
坂上 仁美

編集後記

今年も早いもので数週間を残す時期となりました。本当に一年は「あつ」と言う間に過ぎてしまいきますね。年の始めにたてた計画は思い通りに進んでいますか？毎年大変お忙しい事とは思いますが、もうひと頑張りしましょう。

今年度は「保育所保育指針の改定について」中間報告が公表され、研修会も多数持たれています。「保育士会だより二百二十号」でも掲載されています。折願致します。

今度も研修、研鑽(けんさん)を重ね奮起(ふんせい)しましょう。皆様にとつて2008年も良い年でありますことを祈願致します。

